日刊 動労千葉

79.3.13

No. 57

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部
千葉市要町二ー九（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

でたらめな本部 電話連絡 第406号 を許すな

中央本部 公然と動労の分裂と 千葉地本の破壊を宣言

中央本部は、去る三月八日、「千葉地本をめぐる第一〇二定中委後の取組みと中執決定について」なる電話連絡第四〇六号を発出してきた。この電話連絡は、全くデタラメな「取組みの経過」とそれにもとづく「千葉地本再建のための対策委員会の設置」などによって、中央本部自らが公然と千葉地本破壊、動労の分裂策動を開始したことを示している。

われわれは、革マルと一部反動分子が、この電話連絡第四〇六号をもって、わが千葉地本に対する組織破壊攻撃を一段とエスカレートさせたものとして受けとめ、満腔の怒りを込めて弾劾すると同時に、この電話連絡に書かれている全くのデタラメさについて全組合員の前に明らかにしなければならない。

問題解決のためではなく「一〇二定中委決定を伝達」に来た?!

＝城石組織部長発言＝

この電話連絡は、先ず、「第一〇二回定中委の決定を千葉地本に伝達する」として、去る三月六日城石組織部長他二名の中執が六名のボディーガードを連れて、千葉地本にやってきたことについて、全くデタラメなことを書き連ねている。

① 城石組織部長の「千葉に来たのは問題解決のために来たのではなく、一〇二回定中委方針を伝達に来た」との発言。

② 本部オルグ団の本部青年部長を事務所に入れない……。

①で明らかなように、三月六日、城石組織部長は、千葉に来たことを公然と「問題解決のためではなく、千葉地本執行部が「執行権停止に値する」ことを確認し、その上、全執行委員を査問の対象とすることを決定するという、わが千葉地本一四〇〇組合員にとって、とうてい認めることができない「第一〇二回定中委決定」を「伝達」に来たと言いはなったのである。

城石組織部長をはじめとする本部内一部反動分子は、千葉地本を動労から排除することが「問題解決」なのだといっているのである。

中泉青年部長の会館への立入り 禁止は、当然だ！

そして、②で明らかなように、「本部オルグ団」（?!）の一員でもあるかのようなポーズをとってきた中泉青年部長について、千葉地本執行部が、地本事務所への立入りを禁止したことについて、電話連絡はイチャモンをつけているが、中泉青年部長を先頭とする本部青年部が、この間、ありとあらゆる千葉地本排除ー組織破壊攻撃の先兵となってきたのであり、中泉青年部長に対し千葉地本事務所への立入りを禁止したのは当然である。

さらに、この電話連絡第四〇六号によれば、三月七日開催された中執委は、「千葉地本再建のための対策委員会の設置」を決定した、としている。

このことはもはや、単一組織体における中央ー地方の関係を通り越して、公然と中央本部自らが組織分裂、千葉地本破壊を、この「対策委員会」で決定していくことを打ち出したものである。

「再建」とは千葉地本を認めない立場からする千葉地本の組織破壊の公然たる宣言であり、われわれの決して認めることのできない言葉である。

われわれは、第一〇一回定中委以降、強められてきた革マルと一部反動分子による千葉地本排除ー組織破壊攻撃が、いまや決定的な段階をむかえたことをがっちりと認識しなければならない。そして、2・10地本臨大で打ち出した四つの闘う方針をもって動労四万八千組合員の最先頭で、革マルと一部反動分子による動労の私物化を阻止し、動労の戦闘的伝統を守り、八十年代に向け断固として闘い抜こうではないか。

3.17

青行隊

ブロック対抗ソフトボール大会

九時 集合

（場所 未定）

主催 地本青年部

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！